

新年明けまして おめでとうございます。

寒い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

体も心も温まるHOTな情報を中村茶舗よりお伝えします。

2006年「戌年」で勅題は「笑」です。何かと暗い出来事が続いておりますが、「笑うかどには福来る」と申します。皆さんで耀一年にしましょう。ところで、中村茶舗では、引き立てのお抹茶をご用意いたしております。

干支にちなんだ、お茶碗など多数をご用意いたしております。皆様のご来店をお待ちしております。

また、抹茶体験も実施しております。

(要予約)

弊社中庭、茶室「松吟庵」にてお待ちしております。

中村茶舗

〒690-0064 松江市天神町6番地

TEL 0852-24-0001

FAX 0852-26-3960



やどや

店主
石飛 弘志

新年、明けましておめでとうございます。

昨年もいろいろなことがありました。施設では夏祭りだけではなくいろいろな行事があったと思います。利用者の皆さんの活躍が目に見えます。やどやは主に職人の方たちの長期滞在に便宜を図るもので、部屋の清掃障がいがある方をお願いしています。少しでも持田寮やういんぐの皆さんが自立されるお手伝いできればと思います。

やどやの利用料金は下記のとおりです。おいしい食事と心をこめたおもてなしでお待ちしております。ご利用よろしくお願いたします。



ボーディングやどや

〒690-0822

松江市下東川津町587-1

TEL・FAX 0852-28-8810

宿泊料金(税込)

一泊2食付 6,500円

素泊まり 4,500円

長期滞在2食付

5,000円

地元の新鮮な食材をふんだんに使った特別料理も承ります。

事務連絡

後援会役員会を開催します。

下記の議題のほかに、会員の皆様からご希望の議題がありましたら事務局までご一報ください。

期日 平成18年1月24日

議題 1. ワークセンターフレンド竣工式及び千鳥福祉会15周年記念式典について

2. 来年度事業計画について

3. 収支状況と会員募集について

申し分ないのですが、景気の上向きが福祉事業に影響するのはまだまだ程遠く、今年の春から1.3%の単価減額が発表されたばかりです。そして、経過措置をもって「施設に予算がつくのではなく、目的を明確にした事業に予算がつく(施設の概念が消える)」など、大きな改革が始まりました。福祉の体系そのものを変える思い切った改革ですが、事業の基本を大切に、利用される方々から信頼され、地域の方や後援会の皆様に心からご支援をいただけるような事業を目指して今年も地道に努力して参りたいと思います。

本年も、どうかよろしくお願いたします。

お礼とごあいさつ

千鳥福祉会 理事長 山本 昌子

にむけて懸命に準備しております。知的障害がある方に適した仕事としてクリーニングにたどり着いてから10年になります。長い道のりでした。まだまだ憲法で保障された労働権の保障には到底届きませんが、皆様からのご支援により、その願いが少し形として見えてまいりました。

ただ、全体的な状況について考えれば喜んでばかりいるわけにも参りません。みんなで支える地域福祉の理念は

あけましておめでとうございます。会員の皆様には、ご健勝にて新年をお迎えのことと、心より喜びを申し上げます。

また、旧年中の多大なご支援に対しまして、役職員ともに心よりお礼を申し上げます。

お蔭様で、今年、千鳥福祉会は創立15周年と通所授産施設「ワークセンターフレンド」の設置を同時に迎えることができます。3月1日のオープン



2006年1月15日 No.9

後援会便り

社会福祉法人
千鳥福祉会

〒690-0814 松江市東持田町1415
TEL. 0852-24-8820 FAX. 0852-24-8825
(千鳥福祉会ホームページ) <http://www.9ocn.ne.jp/~chidori>
(メールアドレス) chidorifukushikai@luck.ocn.ne.jp

年頭のごあいさつ



千鳥福祉会後援会 会長

稲塚 公郎

(松江土建株式会社社長)

明けましておめでとうございます。平成18年の新春を皆様ご家族お揃いで元気に迎えられたこととお喜びを申し上げます。

これからの一年が千鳥福祉会にとりましても皆様にとりましても、希望に満ちた良い年でありますよう心からお祈りする次第であります。

さて、内外ともに大きく変化が続く中で新しい年を迎えましたが、昨年を顧みますと、政治においては9月に自

民党の大勝と民主党の惨敗がありました。その結果のよしあしについては後世の歴史家の判断に任せるとして、経済では景気が回復してきました。これは当然のことながらとても歓迎すべきことであります。しかし私たちの住んでいる地方や地域を眺めると、依然として景気回復の恩恵は少なく「三位一体改革」等の国の政策により各自治体は財政的困難に遭遇した一年でありました。いろいろな事件も多く発生しました、何かばたばたした西(とり)年らしい一年であったように感じます。

ところで、今年がどのような年になるのか気になるのですが、課題の多い中でひとつだけテーマを選ぶとすれば、国民にとって一番嫌いな「税」の問題が話題になるような気がしません。昨今の景気回復が続いていることを踏まえて、政府は税制の軸足を「景気対策型」から「財政重視型」へと移してくると思われます。企業も個人にとっても恩典のあった定率減税はいす

れ廃止され、たばこ税等も増税が計画されそうです。しかし、一方で国の予算は景気回復による税の増収もあり、借金に頼る割合は少し改善されそうありますし、経済は9年ぶりの「脱デフレ」の見通しのようです。この上は企業活動がさらに活発になり。地域にも良い影響が早く出てくることを大いに期待したいと思います。

今世間では改革という言葉が良く使われます。時代の変化とともに、仕組みが古くなったところや効率の悪いこと等、その時々の変化に対応することは必要なことであります。しかし、決して忘れてはならない大切なことは、絶えず「人の痛みが分かる思いやりのある心」を持ちながら事にあたるということではないかと思ひます。これから1年皆様とともに「思いやりのある心」で豊かな社会創造のために少しでも貢献できればと考えています。今年もどうかよろしくお願申し上げます。

新年のご挨拶



千鳥福祉会後援会 副会長

伊藤 立身

(和幸電通株式会社常務取締役)

千鳥福祉会並びに後援会の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年も何卒宜しくお願申し上げます。

後援会便りに「新しい年」と題してご挨拶申し上げてから、早いもので一

年が経ちました。この間、大きな事業である夏祭り「もちだ&ういんぐ/サマーフェスタ」も成功裡に閉幕し、関係する皆様方の満足感は大変大きいものと思ひます。お手伝いした私としても大変喜んでおります。

これは、山本理事長・宮廻施設長様を始めとして職員の皆様方、後援会の皆様方がこの事業を成功させるという強い気持ちが一つになった賜物と思ひます。

本当にご苦労様でした。千鳥福祉会後援会組織も稲塚公郎新後援会会長の下、会員の皆様のご理解とご協力をいただき総会にて理事5名、会計事務1名、監事2名を選任していただき、社会貢献事業の計画・実施に向ける体制が整い、早速、夏祭りのお手伝いをさせていただくことが出来ま

した。今後も、この後援会が身のある組織として充実していき、千鳥福祉会様と共に発展していけることを願っております。

千鳥福祉会様に於いては、関係者皆様の願いも叶い、クリーニングの授産施設「フレンド」がめでたく竣工となり、近々に試運転並びに本稼働されると聞いております。新しくなった施設で気持ち新たに運営され、関係される皆様にとって素晴らしい施設になることを願っており、かつ、ますます発展されることを願っております。

どうか後援会の皆様方、今後とも後援会組織運営にご支援とご協力の程、何卒宜しくお願申し上げます。おわりに、本年も皆様方にとりまして、素晴らしい年になりますよう心からお祈り申し上げます。

謹んで初春のお慶びを申し上げます。会員の皆様の御多幸と御活躍をお祈り申し上げます。

娘が書いてくれました。
似てるかな？



千鳥福祉会後援会 副会長
長峰幸恵

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。近年、高齢者（福祉）施設の話はよく耳にしますが、障害者（福祉）施設の話はあまりしない中、当施設の存在は、知的障害者を持つ親家族にとっては、とても安心できるものと思います。当の本人にとっていろいろな経験ができるし、いろいろな人とのかわりもでき、自立していく為の重要な試練の場だと感じます。これからの当施設の大いなる発展と社会への重要な貢献に期待します。ちなみに2005年の漢字は「愛」でした。人間愛は勿論、家族、親子、夫婦、友人、仲間など、人と人とのつながりには愛がとても大切です。愛があるからこそ信頼でき、信頼されるのだと思います。今年は「愛」について

「千鳥福祉会に感謝」



隠岐の友人と

社会福祉法人むさしの郷 理事長
(千鳥福祉会 副理事長)
高橋 行

新年明けましておめでとうございます。早いもので、千鳥福祉会の役員会に参加して7年が過ぎました。思い起こせば実にさまざまな出来事があり、そ

反省し、考え、自分は勿論、みんなが楽しく幸せであるように願って大いに振りまこうと思います。いくら振りまいてもタダですから・・・。

2006年 新年の抱負

千鳥福祉会後援会 理事
野津 瑞江
(株式会社神谷鉄筋常務取締役)

あけましておめでとうございます。年頭に当たり皆様のご多幸とご健勝を祈念申し上げます。厳しさに明け、厳しさに暮れた2005年、今年こそはよき年になりますようにと、祈願する一人でございます。さて、今年の抱負を書くようにのご依頼を頂きましたが、今年は充実した年をすごし、何事もポジティブに考えていこうと思います。が、しかし現在の日本は物の見方が悲観的になり、より物事を悪化させます。実質悪い環境に陥ってしまっており、いわゆるうつ状態ではないでしょうか。だからこそ私たちは、企業経営においてもプラス思考で考え、また、自社の現状を冷静な目で見て生きたいと思えます。今年また誓いを新たにし、頑張りますのでよろしくお願いいたします。新年の挨拶といたします。本年も宜しくご支援のほどお願い申し上げます。

これらの多くが貴重な体験として残されています。社会福祉事業にも地域格差があることを目の当たりにし、山陰の地で懸命に生きる知的障害者の純真さとその健気さに感動もし、心の温もりに接しては、都会と異なる豊かさや深さを知りました。そんな人の響きに触れては、何度も移り住みたい衝動に駆られ、いつしか「故郷は遠きにありて想うもの・・・」となったのです。この7年間どれだけお役に立てたのかと思ひ返し、何事も過ぎてしまえば、当時の苦労なども懐かしさに変化してしまうものです。福祉施設の事業は自己満足の世界であるとも言われます。良かれと想って取り組んでみても、強い意志で頑張っても結果次第で感謝さえされません。ましてや、事故のないように全神経を注ぎ込むものですから、誰かがどこかで精神的に

〈言葉が通じなくても、人は交流できる。そこから生まれるもの。〉



千鳥福祉会後援会 監事
岩崎 光春
(クリエイティブプロダクション アドス代表取締役)

昨年末の12月27日～30日まで、韓国の江原道束草市というところへ、中高生父兄を含め36名でホームステイを実施してきました。学生は鳥取県全域から募集をし、もちろん韓国に訪韓するのは初めてという子供達ばかりです。生徒の内容は大半が女性。女性の積極さがここでも感じられます。学校の教師の参加はなく、まさに民間が子供達のお世話するという状況で、こちらとしてもかなりの責任を感じての訪韓でした。生徒の中には授業で多少ハングルを勉強した生徒もいましたが、会話にはあたりません。生徒も大人もそんな不安な気持ちを持ちなが

支えてくれませんか」と長く取り組んでいると苦しくなる。そのため、「小さな親切」はありがたいけど「大きなお世話」は少ないほうがいい。千鳥福祉会は、立派に立ち直って事業も多彩になりました。利用者の生き生きとした表情には自信があふれています。後援会の皆様を始め、支援いただく方々にお礼を申し上げたいと思います。後援会やボランティアの皆さんに絶大な支援を得て開催するサマーフェスタも地域に溶け込んだ一大行事となり多くの人の出会いの場になっています。今後も更なる発展を目指し、法人役員・職員・保護者・地域の共同参画を実現し、事業が心技一体となるよう尽力いただけるなら、設立当初の理念と意思が生かされてくると思います。埼玉からも精一杯支援していきたいと思えます。

ら米子から韓国仁川空港へ。空港から束草市まではバスで約5時間。米子から考えれば京都の先まで行けそうな距離です。冬の韓国は日本と違い気温もマイナス！最高気温がマイナス5度。最低気温がマイナス11度とバスの疲れに追い打ちをかけます。長旅を終え、束草へつき、ホームステイ受入先と御対面。緊張感は最高レベル！（生徒）各々各家庭に別れていき1日目終了。2日目の夕方に文化交流を計画しており、再度生徒に会ったのが夕方4時。

各家庭の家族とともに会場に集合しましたが、生徒たちは手をつなぎ、言葉の壁はなんのその！といった感じで笑いがたえない。今回ホームステイを中心に計画しましたが、一番感じたことがしゃべれないからと尻込みするのではなく、しゃべれなくても飛び込む勇気があれば、相手は受け入れてくれるし、溶け込むことができるんですね。そう言う意味では大人より子供の方が早い。人生も同じだな～と感じた一瞬でした。経験のないことに尻込みをするのではなく、その一瞬を物にするかどうかは本人の勇気が全て。人生を振り返ると同時に、これからの人生の教訓をいただいたような気がします。あの時しておけば良かった！と後悔する前に。

研修に参加して 柏井 利江

(アーク工業株式会社副社長)

あけましておめでとうございます。会員の皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。新年の挨拶にはちょっと硬いかもしれませんが、過日、研修の機会があり出かけたので、そのときの感想に触れてみたいと思います。研修の中で「変わる」という言葉がありました。自らの事業を通して感じることですが、企業法人であろうと社会福祉法人であろうと、全て法人にとって、信頼されるサービスの提供は当然のことです。また、これからの厳しい時代、世の中の流れを先取りし、「変わる勇気、変える勇気」持たねばなりません。その勇気のない法人は淘汰されることを心して経営をしなければなりません。

公私のことなど



千鳥福祉会後援会 監事
青山 まゆみ

あけましておめでとうございます。新年を迎え、今年一年がどのような年になっていくのかワクワクしています。昨年、今まで経験したこともない出来事、天災や事件の多い年でした。常識は一瞬にして変わることも実感しました。いつ、何が起きるかわからない時代ですが、その中であってほしい感動できる人生を送っていきたいものです。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

また、「社会福祉法人にとって職員が最も重要な財産であり、人材ではなく“人財”である」といわれました。このことも社会福祉法人に限らず、法人であるところは皆そのようになってきます。資格をとるのもいいでしょう。更に厳しく言えば、資格の取得には何日も休まなければならない。その費用も法人がすべて負担しているようなら、これからは一部か、半額を本人が負担するようにし、なおかつ休暇をとっていきような時代が来ます。現に法人会社は実行しているところがあります。資格を取れば手当が支給されますので自己負担があっても不思議ではないと思います。

そして、社会福祉法人だから利益を出さないというのは過去のことであり、地域の中に入って、ニーズをキャッチし、実践し、安心を与え、信頼を得て利益を確保しなければ新たな地域福祉サービスの開発、職場環境の改善、人材育成、地域還元を行うことができないと考えます。日本の福祉はまだまだ行き届かないところがたくさんあります。できないのではなく、できるように・・・“できるかもしれない”と考えて、安定的な福祉サービスの提供を目指したいものですし、地域社会への貢献は企業にとっても最終的な目的でもあるわけだから、後援会を通していい連携を作りたいものです。



林 悟
(東亜建物管理株式会社専務取締役)

昨年は酉年で長女の生まれた干支にあたるので、良いことがあるぞと思いつつ1年が終わりました。何かいいことがあったわけでもないのですが、特に悪いこともありませんでした。ただ、一年一年体力の低下を感じ、一喜一憂しているところ。人生の中で、大過なく過ごせればそれが一番幸せであるといいますが、それでも何か良いことはないかと思えます。今の会社に勤めて、26年が過ぎました。仕事も乗っていた時期がやはり一番楽しかったと思います。今は厳しい状況にありますが、それでもISO 9000の取得に向けて頑張っていますし、官から民への政策で指定管理者制度が県・市でも施設の運営維持管理に取り入れられ、わが社も松江市の一施設の管理候補者に内定しました。今年は新しい分野への挑戦となります。竹と犬をあわせて“笑”となりますが、2006年の成年が笑う門には福来るで、多福の年になることを願っています。

あけまして おめでとうございます



(有)木佐設計
木佐 英一

〒690-0015
島根県松江市上乃木4-23-48
TEL 0852-31-5735